

高等学校グランドデザイン会議第1回上北・三八地区部会概要

日時：平成18年9月19日（火）

13:30～15:30

場所：青森県総合社会教育センター

<出席者>

加福部会長 石川副部会長 石橋委員 平葎委員 武輪委員 野田委員 古舘委員
益川委員

開会

加福部会長

部会長を務めさせていただきます加福です。よろしくお願いいたします。

【各委員から自己紹介。】

加福部会長

要綱によると副部会長については部会長の指名となっておりますので、皆さんよろしければ、十和田市立三本木中学校長の石川委員に是非お願いしたいと思います。皆さんよろしければ拍手をお願いします。石川委員は以前に十和田市教育委員会の課長もされていきますので、上北地区に明るいのではと思い推薦しました。副部会長としてよろしくお願いいたします。

【全員から賛同を得た。】

加福部会長

早速ですが意見交換という事ですが、三戸高校の石橋委員から事前に何か準備する事はなかったのでしょうかと言われましたが、そうではないと思います。先程事務局からも説明がありましたように、皆さん新聞等で御存知かと思いますが各専門委員会で色々話し合った事について、21年度以降の高等学校はこうあるべきだ、地域の学校はこうあるべきだ、子どもの数が少なくても学校は無くしてはいけない、など色々な意見があると思います。それについて上北・三八地区の皆さんにお集まりいただいて、色々な御意見をいただきたいと思います。A委員は経営者ですし、そういった立場から、地域の高校生や子ども達がどうあるべきかを踏まえながら御意見をいただければと思います。小学校のPTAだからと言って、家から学校までの距離が遠いからちょっととかだけではなくて、地区の子ども達を見ていただいてやっぱり小学校の生徒が少なくてもこの

ままでいいのかなとか、自分の子どもが高校に行く頃にはこうなって欲しいとか、その辺に関する意見をできるだけそのまま述べていただき、私達がまとめた物を検討委員会に持って行きます。ですから、遠慮せずに御意見をいただければと思います。今日は2人欠席していますが、ここにいるメンバーで率直な意見をどんどん出していきましょう。本日は30分しかありませんので大した事はできないかもしれませんが。特に「資料9 検討課題に対する専門委員会委員の意見」を1つずつ見て行くのが一番良いのですが、そういった時間ありませんので、事務局への質問も含めて、御意見・御質問があればお願いします。

第1専門委員会では色々な意見が出されていますが、望ましい学級数について御意見がありましたらよろしくお願いします。中学校から見た高校という立場から、生徒数の減について、高校はこうあるべきという御意見はございますか。

石川副部長

学級数という事から見ると、第1専門委員会の意見の中で下から2～3行目にあるように、学級数は一律ではなくて地域事情を十分考慮すべきだという意見に共感を覚えています。上北の地域事情としては、地域の範囲が広い割には交通手段が十分行き届いているとは思えない状況があります。一律に学級数で区切る事によって地域に現在ある高校がなくなった場合の子ども達の通学の便利を考えると、地域事情を考慮しながら柔軟に必要な数を考えて行く事が必要です。私は十和田市内ですので上北の中でも割と交通の便も良く選択肢の多い地区にいるとは思いますが、それでもやはり生徒達は通学の便なども考えているという事が志望状況からある程度は見て取れます。

加福部長

そういった事も考えられますね。地域一律の学級数という事について、親として思う所はありますか。学級数とは、つまり学校が小さくなったり大きくなったりという事ですので、そういう事を考えるとどうですか。

B委員

前後の流れや専門委員の検討状況を把握していませんのでピント外れの可能性もありますが、クラスが多くなればなるほど当然教育の浸透度合いが薄くなる感じもします。決してそんな事はないのかもしれませんが。ただし、ある程度は石川副部長が言ったように地域なりの事情を汲んだ上で検討して行かないと、全く無視するのは危険な気がしました。

C委員

あそこは色々な所から集まってきます。全体的に田舎の子と言いますか素直で良い生徒ばかりですので、何とか進路志望等を達成させてやりたいと思っています。郡部の高

校は良くやっているとありますが、当校でも秋祭りに今年で8年連続山車を作って参加しています。先程の話に戻りますと、これはあくまで理想で現状に逆行する話かもしれませんが、現在多様な指導体制が求められる中で、希望としては少子化にあっても学校再編は、クラス減だけではなくより質の高い教育を目指してもらいたいのです。

少し考えているのは、市部にあっては1学級35人で6学級規模くらい、郡部にあっては1学級30人で4学級規模くらいが望ましいのでは、と現在は考えています。特に郡部の普通科、職業科、総合学科はややもすれば学習意欲の乏しい生徒の受け皿的な側面もあります。多様な進路面も考えると、可能な限りギリギリではない教員数の確保をお願いしたいと思います。

加福部会長

教員数の確保となると、やはり生徒数ですがその辺が難しいですね。会社の経営とは違い、学校では先生の数は希望した分を配置してくれないという事情があります。やはり教科の先生がたくさん揃っていないと、色々な生徒が入学してきて、大学受験しますと言った時にその教科の専門家がいないと受験指導は難しいです。学校規模、学級数、生徒数について、会社の経営という立場から何かありますか。

A 委員

教育となると正確には分かりませんが、学校経営から言って、生徒数が減るのに見合う分の先生の数を減らさなければならないというのは良く理解できます。地域の生徒が減ると学級数が減るとするのは合理的だと思うのですが、先程おっしゃったように専門的な知識を持った先生がいなくて自分の専門外を担当しなくてはいけないという場合、単純に考えると先生が回って行けば良いのではないのでしょうか。同じ高校だけの先生ではなく、兼任した先生が専門的な事を回って行って授業をするのです。校舎化と言うお話もありましたが、統廃合が進んで広い地域の生徒達が移動して授業を受けるよりも、1人の先生が回って歩いた方が良いのではないのでしょうか。

加福部会長

学校にいと頭が固くなりまして、そういった事ができないと考えがちです。思うように先生が回ってくればいいのですが、時間、組み合わせ等細かい事を考えると難しいと考えてしまいます。今現在高校では、音楽や美術の先生が回ってと言うか、掛け持ちで教えている学校もありますから可能なのかもしれませんが。

どうでしょうか。学級数に関しては一律ではなく、地域の事情を良く考えた方が良いのではという意見でしょうか。

D 委員

進学校と言われる所がありますよね。そういう学校はやはり6～7学級を維持して欲

しいと思います。今までも、地域を担う人材を育てて行くという大きな役割を果たしているのですから。1学年が2学級だと教員は13名で、4学級だと28名と言うように概ね決められているようで、生徒の人数が少なくなると大変だという話を聞きます。先生が言ってましたが、2学級では教員の配置が難しく、出張や病欠の時には大変だそうです。また、部活動も少なくなり生徒達が切磋琢磨していけないとか、親の負担が大変だという事もあるそうです。お金の事ばかり考え、心配しているという話も聞きました。とにかく、2学級では学校経営が難しいという話です。

校舎制も1学級ですが、その地区からどのくらいの人が入学しているかと言うと、4割弱が地元からで、後は偏差値で市部から入学する生徒だという現状です。1学級となると尚更教員の配置が難しいので、スクールバスや交通費を無料にする等の対応策を取り、近い学校に通ってもらうのが良いと思います。親御さんの経済状態や地域のエゴではなく、子ども達が何を望むのか、どうなったら一番良いのかを考えましょう。修学旅行や文化祭で本校に行くという事がどうなのか、子ども達のために良いのか、私も分かりませんが、校舎制も考える所が多いです。

加福部会長

学級数については、市部と町村部の差と言うか、地域の事情を良く考えてもらいたいですね。やはり学級数が少ないと、経済的な面でも負担がかかるという意見ですね。

D委員

交通費を無料にした方が、学校を維持するよりも安いという意見もありました。

加福部会長

そういった事も含めて、経済的な負担がかかるんだよという事については、もう少し考えてみたいと思います。

次に移ります。普通高校、職業高校、総合学科のそれぞれの望ましい学級数についてです。それぞれの在り方について説明がありましたので、思い出していただきながら、その辺の意見を聞いてみたいと思います。総合学科は上北・三八では七戸高校しかありません。そういう事から見てどうなのかという事を話して行きたいと思います。また、三八地区には工業高校などは多いのですが、大学進学や就職も含めそれらの在り方について御意見があればお願いします。

E委員

高校を終わって大学入試という段階になると、今の入試制度では科目が増えており、専門分野を学ぶ高校生にはハンディが多いという話を聞きます。それでいながら、志願者数が定員を割っているという話ですので、その在り方や中身については本当に検討して、その後に生きるような形で設置しないと難しいと感じました。進学率も高くなり、

科目数が増えているのに、高校の段階で絞った授業を受けるという事に意味があるのかなと感じました。

加福部会長

工業高校や商業高校からも大学へ進学する生徒もいるのに、県では先生を揃えていないのはおかしい。そういう学校を作れという事でしょうか。

E 委員

現状に沿った教育内容にしなければ存在できないのではという事です。

加福部会長

就職についてA委員から何かありますか。

A 委員

私の関係では八戸水産高校が近くにあるのですが、細かい学科は必要ないと思います。生徒も企業も求めています。学校で覚えた事をあてにして採用してる訳ではないので、学科を見直し再編して絞った方がいいと思います。後の枠は、主な進学を希望する普通高校に回せばバランスが取れるのではないのでしょうか。今は就職難ですが、20年ほど前の景気が良かった時には、うちの生徒で水産関係に就職する生徒はいないと言われました。水産高校の生徒でも、行きたくて行っているのではないというミスマッチが存在するという事です。

加福部会長

そういった事についても検討委員会で考えると思います。普通高校、職業高校、それぞれの学科・コースの内容を検討して、その辺から統廃合や学級減を考えなければいけません。この次までに資料を読んできていただいて、最初に言ったように、もっと地域にとって幼稚園、小学校、中学校、高校を見てどう思うのか、というような意見をいただければ助かります。専門委員会の方がどういう話をするのか我々も勉強して、素晴らしい青森県の高校生を育てるために、また、高校をこういうふうにして欲しいという要望を出したいと思います。

これからもよろしくお願いします。